

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800814		
法人名	株式会社 安養介護サービス		
事業所名	グループホームあんよう荘 グループホームフィルハート市川大野		
所在地	市川市南大野2 - 30 - 17		
自己評価作成日	平成29年3月5日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2 - 10 - 15
訪問調査日	平成29年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のご入居者様にできる限りの個別対応を！をモットーに、その人らしさを大切にされたケアを実践しています。家庭的な環境のもと日常生活の支援及び心身の機能訓練を行い、入居者様が有する能力に応じ可能な限り自立して生活を営み、当ホームでの生活を継続できる様支援をしています。ホーム内は家庭的な明るい雰囲気、ご入居者様1人1人はその人らしさを大切に生活をいただいております。毎日の生活の中で、「選択」と「決定」の機会をできる限り取り入れ、自立支援を兼ねた体操、散歩や、人形製作などの趣味を支援したりと、一人一人に寄り添うケアを実践しています。生き生きと、入居者様同士、仲良く過ごしていただいております。過去は10年連続市川市市明青展に出展をしたり、地域の中でも様々な活動をしてきた施設です。よりよいサービスを今後も追及していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年12月から、新しい運営者と管理者に代わり心機一転新たなホームとして生まれ変わろうとしている。「入居者一人ひとりに、人として、幸せに、安心して生活出来る日々を全力でサポートします」との新しい理念を掲げ、「『個』を何よりも大事にします」との使命を職員間で共有し、一人ひとりの入居者を先ず良く見て受け入れ、一人ひとりに真剣に向き合うケアに取り組んでいる。1階事務所と3階ユニットのリフォームも終え、4月から「グループホームフィルハート市川大野」と名称も変え、3階ユニットもオープンし新たなスタートをするとのことであり、今後の地域に根差したホームとしてチームで個別の自立を支援していく取組みが期待される。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各フロアーに提示し、職員のミーティングでを通じて理念の共有と実践をしています。	「入居者一人ひとりに人として幸せに安心して生活出来る日々を全力でサポートします」との新しいホーム理念を掲示している。理念を実践するためのスローガンと我々の使命を掲げ、特に「個」を何よりも大事にするケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動に参加し、地域の方と協力体制をつくっています。今後は防災訓練への参加も協力していく計画を立てています。	自治会の班長をしていたこともあり、クリーン作戦等で協力している。公民館での行事、サロンや地域交流会に参加している。散歩途中で地域の方と交流したり、急に雨が降ってきた時に声を掛けて頂き洗濯物を取り込んだこともある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会等の行事では地域ボランティアの方々に協力していただいたりしております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回高齢者サポートセンターや民生委員の方にもご参加をいただき、サービスの向上につなげております。	高齢者サポートセンター職員、地域民生委員や家族、入居者が参加し、ホームからの連絡事項として行事報告や予定、入居者の状況、事故報告等を議題として2ヶ月に一度定期的に開催している。公民館行事等の情報を頂き参加する等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でのかかわりや、市とも積極的に相談のコミュニケーションをとり、あたたかい協力をいただいています。	特に運営者管理者の交代に伴う相談等を積極的に行い福祉政策課施設グループ担当者の方との協力関係が築けている。高齢者サポートセンターの方には毎回運営推進会議に出席いただき、実情や取組を見て頂き適切な助言を頂いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを行い、職員の理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでおります。	言葉遣いや制止する言動などスピーチロックも含めて常日頃から身体拘束をしないケアに努めている。4月には研修を行い改めて理解と意識の向上を図り再確認を行う予定とのことである。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを行い、職員の理解を深め虐待防止に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者が増えており、活用しております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には、ご来荘いただきます。直接お会いして書面と口頭で十分な説明を行っております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員の日々の交流を大切に行っております。また、ご家族様のご意見は張り出して職員に周知徹底させ、評価の向上に生かしています。	毎月のご様子を写真にコメントを付して家族に送付している。面会時には最近の様子などを詳しくお伝えしご意見や要望をお聞きするようにしている。頂いた意見や要望だけでなくおほめ頂いたことも含めて張り出し、職員間で共有するようにしている。家族と職員の交流を大切に、今後母の日会、父の日会や敬老会等家族参加の行事を積極的に取り入れていく予定である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員MTGを実施したり、日々の交流で意見や提案を聞く機会を設けております。	ミーティング時の他、日常的な話し合いの中で職員からの意見や提案を多く聴くことが出来ている。薬チェック表、入浴方法やおやつのドリンクメニューなど多くの提案が出され、運営に反映させてきている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の増額等を通して、頑張りが成果につながるよう整備しています。また、精神的なやりがいも感じられるよう、ご家族や外部からのお褒めの言葉を全員で共有しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に県や市の研修に参加してもらうよう努めています。また、ホーム内研修を実施し、適切なケアの実践につなげております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム運営事業者同士の研修に参加したり、グループホーム協会のイベントにも参加しています。また、各地のグループホームを見学、勉強に訪問させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の過去をできる限り詳細にお伺いし、詳細にアセスメントし、支援計画に結びつけております。不安にならない環境づくりや、ご本人、ご家族の意向を全職員で確認し、お気持ちを汲み取り、安心を確保するための関係作りに努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談から時間の許す限りコミュニケーションをとり、ご家族が困っている事、不安な事、要望等を共に考えながら安心を確保する関係作りに努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身状態を把握し、今何ができるか、何ができているか、何をしたいかを確認しながら機能が維持できるよう努めております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様との共同生活の場であることを、常に念頭に置き、出来る限り作業を共にしております。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今の症状の段階を理解できるよう支援しております。詳細に報告をしながら共にご本人を支えて行く体制を取っております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会、連絡があった時は、ご家族様とも相談し行っております。また入居者様宛に年賀状や郵便物も届きます。	息子さんやお嫁さんお孫さんの他子どもごころからの友人や日舞のお弟子さん等が訪ねて来る。家族と通院のついでに馴染みのそば屋さん立ち寄りお墓参りに出かけている。真間川にお花見に行く等馴染みの関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士と一緒にできる作業・レクリエーションを、職員が輪の中に入り、孤立のないように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族様からの相談があればできる限りのご支援をしております。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や生活の様子を観察し、思いや意向の確認に努めております。毎日したいことがあるかといった本人の意思を確認する習慣をつけるようにしています。	「その人らしく、安心して、幸せに過ごせる日々を提供する」ことがホーム理念に掲げられている。その実現のために、入居者一人ひとりの「今したいこと」や「過去の想い」の把握に力を入れている。入居者の行動や表情の変化をしっかりと観察し、本当の気持ちや背景、原因を考えながら支援に努めている。職員が気づいたことはその都度、個人記録表や連絡ノートに記載し、職員間の共有により次のケアプラン作成につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当ケアマネジャーから情報把握に務めており、またご入居後はご本人様、ご家族様とのコミュニケーションからも把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・表情・言動・食事・水分摂取量等で心身状態を把握しております。日々の過ごし方については意思を確認し、入居者様のペースを確認しております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からの要望も反映させながらホーム長を中心に、計画作成担当者、介護職員で共同して柔軟に介護計画を作成しております。	介護記録や職員からの意見を参考にして、計画作成担当者が短期目標のサービス実施状況や達成度のモニタリングを毎月実施している。面会時を利用して家族から意見を聴取し、必要に応じて電話でサービス内容などの意見を聞いている。また、更新時には事前にケアプラン原案を家族に送付し、要望や意見を収集しケアプランに取り入れている。リーダーを中心に職員間でケアプラン原案についての意見交換が行われケアプランが作成されている。	ケアプランを意識して支援できるようにケアプラン第2表を個人記録に添付する等の工夫が望まれる。ケース会議の実施やモニタリングへの職員の関与にも期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってのケアの実践、結果、状態の変化等を記録し、情報を共有しながら計画の見直しに努めております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に沿ってのケアの実践、結果、状態の変化等を記録し、情報を共有しながら計画の見直しに努めております。一人一人に真剣に向き合うことをホームのスローガンにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のクリーン作戦や、地域交流会、サロン等への参加で入居様が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを営むことができるように支援をしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にしております。希望者には協力医療機関からの毎月の往診を受けることが可能です。	往診医による月2回の受診にはホーム長やリーダーが立会い、気になる状態などを医師に伝え、適切な医療を受けることができるように努めている。また、これまでのかかりつけ医の受診には家族が付き添い、医師からの指示事項や検査結果などについて家族から報告を受けている。診療内容や職員からの質問に対する回答、指示事項、服薬情報は「受診報告書」に整理し、職員の閲覧により共有を図っている。また、「服薬管理表」により服薬ミスを防ぐための確実な服薬支援が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおりませんが、提携医や他のかかりつけの往診医、訪看等に日常の生活の中でとらえた情報や気づき伝え、相談しています。また、グループ会社内で訪問看護ステーションを運営しており、日々の疑問等は相談できる体制ができています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は、担当医、ナース又は、ご家族様の希望を得ながら情報交換をし、早期退院に努めております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限りの支援をしていきます。ご家族様、ご本人の意向をよく確認をし、ホームでご家族様との協力でできることは、務めて行います。医療対応が大きく、ご希望の対応がホームでは困難な場合には医療系の施設を紹介し、託すことがあることも入居時に説明し、ご理解を得ています。	契約時に医療面でのケアを行っていないことや入院期間が長くなった際の対応など、ホームでできないことを具体的に説明している。重度化した際は訪問医の指示により入院などの適切な対応が行われている。また、ホームで対応が困難になった際には、入居者、家族の意向や希望を考慮して他の施設への紹介などの支援が行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化し、全従業員に周知しています。事故報告書、ヒヤリハットも記録し、共有し、常に事故防止に努めています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた消防避難訓練を、同ビルテナントの従業員と一緒に市川市消防署の協力を得て行っております。	年2回の消防署立会いの消火・通報・避難の消防・防災訓練を入居者も参加して実施している。自治会へAEDや消火器の使い方などの訓練案内を行うなど地域との連携を図っている。訓練後は消防署からの助言や課題を報告書に整理し対策につなげている。スプリンクラーや火災報知器、消火器が設置され、電気器具やプラグ、ガス器具などの日常的な点検も実施している。	夜勤者による夜間火災を想定した避難訓練の定期的な実施やホームに近い職員を優先した緊急連絡網の作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳とプライバシー確保については、ホーム長が中心となり、指導を徹底しています。特に言葉遣いについては徹底して確認指導しています。制止する言動や、プライバシーに係わる言葉にはその中でも注意しています。	不穏な動きが見られた際は、抑制や制止を感じさせない言葉づかいをするように心がけている。トイレや浴室、居室などへの入室の際は必ず声かけとノックを行うなどプライバシーにも配慮している。また、入居者の個人情報やむやみに他の入居者の前で話をしないようにしている。おやつ時間の飲み物は、日本茶やこぶ茶、コーヒーなどを入居者自身の意思で選べるように工夫している。人形作りや絵画などこれまでの趣味を大切にして、端切れや画材の提供を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居様の希望に応じて、散歩や個人的な趣味を自己決定できるようにしております。また飲み物や様々なものを選択と決定をする機会ととらえ、支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の入居者様を主体者としてとらえ、個々の希望や生活を重視しております。施設の都合ではなく、1人1人のできる限り思いにそった支援をしております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事、または気温に合わせ、入居者様の好みを取り入れた支援をしております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や、ご利用者様の希望食を実施したり、一緒にお好み焼きやおやつをつくったりと、楽しみをもって食事に参加できるよう努めております。	入居者が自分でキャベツを刻み、ホットプレートでお好み焼きを焼いたり、白玉を丸めてお汁粉を楽しむなど入居者の力を活かした調理レクに力を入れている。お重に詰めたおせち料理には数の子などのお目出度い食材の料理が用意され、ひな祭りのちらし寿司など季節を感じる行事食も提供されている。入居者の希望を取り入れ、冬の寄せ鍋やラーメン、取り寄せの弁当など自分の好きなメニューの食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量については、全入居者様の記録をしております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいなどが十分に出来ない入居者様は、職員が支援を行い清潔になるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、習慣や傾向を把握し、尊厳に配慮しながら誘導を行っております。	車いすでも利用可能な少し広めのトイレを含む2か所のトイレには、手すりが取り付けられ安全に排泄ができるように配慮されている。トイレでの排泄、リハビリ内での排泄などの状況を排尿、排便に区別して排泄チェック表に記入している。トイレの回数やタイミングを知ることにより職員の意識の向上につながり、排泄の失敗が少なくなっている。廊下歩行やラジオ体操などの運動、腹部マッサージ、乳製品の摂食などにより自然な排便を心がげ下剤の使用は極力少なくしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食物(牛乳や、ヨーグルト、オリブオイル等)などで入居者様個々に応じた予防に努めております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1人1人新しいお湯を入れ替え、ゆっくりと入浴できるよう工夫をしています。入浴前にはバイタルチェックを行い、ゆず湯や入浴剤などを使用し、また石鹸類などは個人で揃えて楽しんでいただけるように努めております。	原則週2回、曜日や入浴時間には拘らず入居者の希望に沿ってゆっくり入浴を楽しめるように配慮している。浴槽の利用を拒否する入居者には無理強いをせず足浴や洗髪、洗体で対応している。洗体の手伝いや声かけ、見守りによる1対1の介助が行われている。また、車いすの入居者や疲れやすい方には2名の職員が介助し安全な入浴支援が行われている。暖房器具による温度調整や浴槽に湯を張ることにより、脱衣所と浴室の温度差を少なくしヒートショックを防いでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や、作業、散歩などで身体を動かし、安眠ができるように支援を行っております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように、服薬管理票を活用し、ダブルチェックを実践しています。必ずお声がけをし、取り違えのないよう確認をしています。また誤薬防止の張り紙もしております。薬の用法は処方箋を見て確認しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様には各々の作業の分担を決めて、気分転換と活気できるように支援を行っております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時には近所を散歩したり、外出をしています。また、季節を感じられるよう、草木を見たりする時間を作っています。	天気の良い日は入居者に声かけをして、近くの公園やホーム周辺の散歩に出かけている。散歩の途中では、季節の花や野鳥を見たり、地域の馴染みの方との会話を楽しんでいる。また、公民館でのコンサートなど地域の行事にも参加し地域とのコミュニケーションを図っている。かかりつけ医への受診時などを利用して、家族と一緒に和食レストランなどの外食も楽しんでいる。桜見物などの季節ごとの外出イベントが計画されている。	入居者の希望にそった季節ごとの外出行事の実施が望まれる。職員の配置を工夫して、毎日の散歩の頻度を更に増やしていく取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在当ホームでは金銭管理をするご利用者様はおりません。ご家族様と相談の上、少額を所持しているご利用者様もいらっしゃいます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と職員が共同で制作したちぎり絵や貼り絵を飾ったり、一緒に植物を育てたり水耕栽培をしたりしています。家庭的で温かい雰囲気の空間にしています。	厨房からの調理の音や匂い、洗濯機の音などこれまでの家庭生活を感じさせる雰囲気づくりを大切にしている。リビングには正月の鏡餅や雛祭り人形など季節感を感じる飾りつけがみられ、廊下には市の作品展に出展した入居者の作品が掲示されている。トランプや将棋などを入居者と職員と一緒に楽しんでいる。また、豆苗の栽培やプランターでの夏野菜作りなどが行われている。加湿器やエアコンで温度・湿度調整をこまめに行い入居者の健康管理を図っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで、入居者様同士で日向ぼっこや雑談、または、音楽などを聞いて自由に過ごされています。縫物が好きな方、や趣味のある方も思い思いすごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れている品物や大事にしている物、またはご本人が希望した物を居室に取り入れ、今までの生活環境となるべく変わらない状況を継続できるようにしております。	テレビやタンス、椅子など使い慣れた物が自由に持ち込まれ、これまでの家庭生活の雰囲気を味わえるように配慮している。読書好きな入居者は書籍を、映画鑑賞が趣味の方はDVDレコーダーを持ち込み楽しんでいる。また、家族の協力を得て、家族の写真を定期的に新しいものに更新している。入居者の好みに応じてテレビや家具の配置換えを職員が手伝い、少しでも居心地よく過ごせるように配慮している。居室の掃除は入居者自身が行い、入居者個々の力を大切にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下を利用し歩行したり、手摺を使い運動をしております。居室はトイレなどに表示をして自立支援に努めております。		